

フォーラムニュース Vol.7 2019 10/1

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責／大竹永介

【速報！】

「私たちの時代 私たちの表現」

シンポジウム in TOKYO 2020/2/1 開催決定！

7月に京都で開かれ大好評だったシンポジウム「私たちの時代 私たちの表現」。同じテーマでのシンポジウムが、来年2月東京で開催されることが決定しました。シンポジウム in TOKYO の登壇者は小手鞠るいさん、古内一絵さん、森絵都さんの3名。詳細については次号以降お知らせしていきます。今月は登壇者のお1人、小手鞠るいさんから、子どもの本についてのメッセージを頂きました。

~~~~~

「純粋な魂に向かって語る」

小手鞠るい

児童書を書くのは、大人向けの作品を書くよりも難しい。少なくとも私は、そう思っている。使うことのできる言葉も限られているし、汚れのない純粋な魂に向かって、何をどう語りかければいいのか、まずは自分の精神を見つめるところから仕事を始めなくてはならない。子どもだましというのは、大人には通用しても、子どもには通用しない。作家名も出版社名も部数も、子どもという読者の前には無力である。そこが素晴らしいし、そこが面白い。



子どもを持たない人生を選択した私には、児童書を書く資格はないのではないかと、長いあいだ、そう思ってきた。しかし今は、こう思っている。親にならなかった私は一生、子どものままでいられる。しかも「我が子」だけではなく、「世界中の子どもたち」を愛することができる。児童書を書く仕事は私にとって、使命のようなものではないかと感じているきょうこの頃（子どもですが、60代です）である。

【こでまりるい：1956年岡山県生まれ。同志社大学卒。『ある晴れた夏の朝』（偕成社）で今年度小学館児童出版文化賞を受賞。アメリカ在住】

## 長谷川義史さんが東京でトークイベント！

～9月20日 於・六本木 文喫～

7月の京都シンポジウムの登壇者のお1人、絵本作家の長谷川義史さんが9月20日東京六本木の文喫（入場料制の書店&カフェ）で新刊「おおにしせんせい」（講談社）の刊行記念トークイベントを開催しました。



「おおにしせんせい」は長谷川さんが小学5年生の時の担任の先生。1時間目の国語の時間にいきなり「今日は1時間目から6時間目まで図画工作」と宣言。しかも図画工作の道具はしまわせて、太い筆1本だけを使うという。パレットのかわりに下敷き、筆を洗うのはバケツ、というとてもユニークな先生。そんな筆では下書きの線からはみ出してしまふ、という生徒に

「おおにしせんせい」はいいます。

「ぬるんとちがう。かくんやで／ふといふででおおきくかくんや／こまかいところはこまかいきもちでかくんや」これはすべて長谷川さんの実体験とのこと。「はみだしてもいいんや！」という先生の言葉に長谷川さんは「生き方」をおそわったといいます。今はとにかく小さく小さく個性を殺して枠に押し込めようとする教育ばかり、それは絵の問題だけではありません、という長谷川さんの言葉がとても印象的でした。

実際に質問に答えながら筆1本でその場で素敵な絵を描きあげた長谷川さん。1時間半余りがあつという間の楽しいトークでした。（写真と文／大竹）

●「フォーラムニュース」7号をお届けします。巻頭の速報でお知らせしており、フォーラムの次の大きなイベントはシンポジウム in TOKYO。来年2月の開催です。詳しい日時、場所などについては次号をお待ちください●先日、インターネットニュースで政府が担当閣僚の答弁が不安、という理由で臨時国会に提出する法案の本数を絞るという記事を読みました●おいおい「適材適所」ではなかったのかい、と思わず叫んでしまいましたが、もっと驚いたのがK 泉環境大臣の海外記者との質疑。地球温暖化対策として具体的に何をするのか、と尋ねられたこの大臣、しばし沈黙（＝答えられず）の後「なったばかりなのでわからない」といいはなったのです。国民もずいぶんなめられたもの。日本のメディアも「次期首相候補」などと持ち上げるばかりでなく、この政治家の真の姿を伝えてほしいものです●フォーラムへのご意見、ご感想、ご希望などは [f.kodomo.mirai@gmail.com](mailto:f.kodomo.mirai@gmail.com) までお送りください。また、配信停止のご希望も同じアドレスまでお知らせください（大竹）